

第15回薬物乱用防止教育研修会 (報告)

山口県学校薬剤師会 満 長 圭 子

1. 主 催 日本学校薬剤師会、健康行動教育科学研究会
2. 後 援 文部科学省、厚生労働省、(財)麻薬・覚せい剤乱用防止センター
(財)日本学校保健会
3. 日 時 平成18年8月19日(上) 9:45~16:30
4. 場 所 国士舘大学世田谷キャンパス 柴田会館3F
5. 参加対象 学校医、学校薬剤師、教育委員会職員、教職員、PTA関係者、
精神保健センター・保健所職員、その他薬物乱用防止に関心のある者
6. 参加者 100名弱

【研修内容】

I. 基調講演 最近の違法薬物への取組みについて

厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課

課長補佐 吉 田 易 範

- ・薬物乱用は、依然として厳しい状況にあり、平成17年は覚せい剤押収量は減少したものの検挙人員は5年ぶりに増加している。
- ・厚生労働省の薬物乱用防止施策
 - ①取締りの実施 ②啓発活動の推進 ③再乱用防止対策
- ・違法ドラッグの乱用も拡大するなど乱用薬物の多様化が問題。
- ・違法ドラッグ対策
 - ①違法ドラッグとは
 - ②薬事法改正による違法ドラッグ規制(H18.6)「指定薬物」として規制
 - ③麻薬等に指定すべきものは迅速に指定

II. 教育講演 薬物乱用防止教育の考え方と手法

神戸大学発達科学部 教授 石 川 哲 也

- ・健康教育の4つの方法
 - 自分を大切にするという価値観に基づいて、危険性の高い行動を回避し、健康な生活を実践する能力を身につけ積極的に対処するという考え方。
 - ①科学的かつ正確な事実を豊かにする学習による方法
 - ②脅しのテクニックを用いる方法
 - ③肯定的自己概念を高めることで行動の変容を促す方法
 - ④スキルを身につける方法
- ・ライフスキル教育
 - 日常生活で生じる様々な問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処するために必要な能力を育てる。

Ⅲ. 研究講演 わが国の薬物乱用状況について

—わが国唯一のモニタリングを通して—

国立精神・神経センター 精神保健研究所 薬物依存研究部

部長 和田 清

・わが国の薬物乱用状況

検挙者数	覚せい剤 > 有機溶剤 > 大麻
住民調査	有機溶剤 > 大麻 > 覚せい剤
中学生調査	有機溶剤 > 大麻 > 覚せい剤
精神病院調査	覚せい剤 > 有機溶剤 > 睡眠薬

予想以上に、大麻乱用が広がっている。

・薬物乱用に関する全国中学生意識・実態調査（基本的に若い人が今後の課題）

- ①喫煙と大人が同席しない飲酒は、有機溶剤乱用へのゲートウェイの可能性。
- ②喫煙→有機溶剤乱用→大麻・覚せい剤乱用という流れの示唆あり。
- ③8年間の調査により（1996年～2004年）有機溶剤、大麻、覚せい剤乱用による害知識周知率は増加しており、薬物乱用防止教育の成果が出ている。

Ⅳ. シンポジウム 薬物乱用の根絶を目指してどのように取り組めばよいか

コーディネーター

医療法人せのがわKONUMA記念東京薬物乱用予防センター

所長 原田 幸男

シンポジスト

- 1) 医療法人せのがわKONUMA記念広島薬物依存研究所 所長 小沼 杏坪
「薬物乱用の根絶を目指しどのように取り組めばよいか」
 - ・薬物乱用によって奪われる若者の「自由」、「尊厳」、「未来」。
 - ・親の力：10代の子どもの薬物乱用リスクを減らすための5つの方法。
 - ・薬物渴望抑制薬の利用。
- 2) 文部科学省スポーツ青少年局学校健康教育課 健康教育調査官 鬼頭英明
「薬物乱用防止教育」
 - ・生徒用教育教材の作成・配布（ビデオ、パンフレット、ソフト）
 - ・薬物乱用防止教育指導者用ビデオの作成・配布（H12、14年）
- 3) 日本学校薬剤師会 会長 杉下 順一郎
「薬物乱用防止教育と学校薬剤師」
 - ・学校保健委員会における「薬物乱用防止教育」の学校薬剤師の活用。
 - ・薬物乱用防止教育の実践例（埼玉県、鹿児島県）
- 4) 埼玉県川口市立十二月田中学校 校長 並木 茂夫
「中学校現場での実践から」
 - ・①喫煙・飲酒・薬物乱用防止教室 ②保健体育授業
- 5) 東京都北区立堀船小学校（前・板橋区立志村第二小）養教 出口 真理子
「小学校における薬物乱用防止教育の取り組み」